令和四年度　全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞　優秀賞　中央審査　入選

「水がつなぐもの」

新居浜市立南中学校　三年　椛島（かばしま）　采奈（あやな）

「山と海はつながっている」

私がこのことを意識するようになったのは、朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」の影響です。主人公の祖父のセリフですが、この言葉はドラマの主人公だけでなく、私の心も大きく動かしました。山と海、この二つがつながっているなどとこれまで考えたことがなかった私は、まさに目から鱗が落ちる思いで、この話に耳を傾けました。

山と海を繋ぐもの、それは川です。そして、その川に流れる水こそが、それぞれをつないでいるのです。一見関係のないように思えますが、水はこの二つを大きく結びつけています。山に雨が降り、そこで育った葉が養分となって雨水とともに川へ流れ、やがて海へと流れつきます。その養分をたっぷり含んだ水は、海の生物たちの繁殖環境を整え、多くの魚介類を育てます。私たちが口にする魚や貝はまさに水に育てられているのです。日本では昔から「魚つき林」という言葉があって、漁業にとって重要と思われる森林を、魚がついているということからそう呼んだのだそうです。つまり、海の恵みは山から流れている水によってもたらされていると言えます。今回、水の新たな一面を知り、さらに水の重要性について考えてみました。

水は、私たちの生活に恵みをもたらす存在ですが、ときに牙をむくこともあります。近年、日本だけでなく世界的にも水によって多くの被害がもたらされています。土砂災害、洪水、浸水といった水による被害、また地震によって引き起こされる津波など、私たちの生活を脅かす存在でもあります。東日本大震災での津波の被害や西日本豪雨は、まだまだ記憶に新しく、今もなお、悲しみの中にいる人がたくさんい

ます。水による被害は、私たちの身近な問題なのです。

祖父に聞いた話では、四十年ほど前、一週間近く大雨が降り続き、国領川がかなり増水したことがあったのだそうです。川の流れがどんどん激しくなり、土手がえぐられ、土手に植えられていた松の木が流されていく光景はとても怖かったと話してくれました。そのときは、浸水などの被害はなかったようですが、祖父母は幼かった私の母や叔父たちをすぐに逃げられるよう準備をし、寝かしつけたとのことでした。また、調べていくうちに平成十六年にも台風の影響で国領川が氾濫したり、土砂災害が起こったりしたことで、多くの被害をもたらしたことが分かりました。反対に、雨が降らないことで渇水になり、松山市では断水状態となり、長い間給水制限がなされていたこともありました。これまで、愛媛県や新居浜市は災害の被害が少ない町だと思っていたので、このことを知り驚きました。

私が通っている中学校は、国領川の河川敷の隣に位置しています。私が生まれてからは河川の氾濫などの被害はありませんが、でもいつどんな状況になるか分かりません。昨年、学校でも浸水を想定した避難訓練が実施されました。避難の際には何を持っていくのかをそれぞれが考えて、荷物を準備し、最上階の三階に全学年が避難しました。今回の避難訓練では、これまでの災害を教訓とし、水の脅威から身を守ることを私たちは実践していかなくてはならないと、改めて感じました。

このように、水は私たちの生活に良くも悪くも大きく関わっています。「山と海はつながっている」、このことを知っているだけで、自分にできることが増えてくると思います。水は私たちの命を守るもの。水を守る行動は私たち全ての生き物を守ることにつながります。大きなことはできなくても、小さなことを積み重ねていくことは今すぐにでもできます。ごみを川に捨てない、水を必要な分だけ使うなど、小さなことから見直していきます。「水がつなぐもの」と「つないでいる水」を守っていくために。